

他人事ではありません

～孤立死を防ぐ方法を、一緒に真剣に考えてください～

この夏、市内でこんなことがありました。

60代前半の一人暮らし。

「ここしばらく姿を見かけないし、郵便物があふれている。以前に救急車が来たこともあり心配である」と近隣の方から市役所に相談がありました。車は置いたままで、親族からの電話もつながらないとのことでした。

この方は、福祉サービス等の利用はありませんでした。市職員が現場に行ったところ、異変を感じたため、警察に連絡して確認。部屋の中で、死後だいぶ経った状態で発見されました。

残念な結果になりましたが、ご近所からの連絡により発見に至りました。ご連絡に深く感謝するとともに、ご冥福をお祈りします。

「若いまち」と言われる本市でも、孤立死が発生しています。今後、高齢化が進み、同様の事例がさらに増加していくかもしれません。市役所だけの対応には、限界があります。

もはや他人事ではありません。近い将来のあなたの問題でもあるのです。

悲しい孤立死を防ぐには、どうしたら良いでしょうか。

例えば、「広報ながくて」に孤立死が起きた地区やマンション、アパート名を掲載して、地域でのあいさつ強化のきっかけにしてもらおうというのはどうでしょう。「そんなことを公表されては困る」という意見もあります。では、どうしたら孤立死が防げるのか、皆さんも一緒に真剣に考えていただけませんか？

本市は、住環境の良さが高く評価されています。一方で、便利で快適ではありませんが、ご近所同士のつながりが薄れてしまいました。

今、日本中の課題である災害や高齢化に対応するためには、ご近所同士のつながりがとても大切だと見直されています。

「最近、姿を見かけない」「新聞や郵便物がたまっている」など「いつもと違う」と感じたら、迷わず『長久手市地域見守り安心ほっとライン（0561 - 63 - 5556 / 24時間365日）』に電話をしてください。

とはいえ、普段からあいさつを交わす関係でなければ、そうした異変に気づくこと

もできないでしょう。今、あなたには、自分の異変に気付いてくれるご近所さんが何人いらっしゃいますか？

「あいさつの奨励なんて、小学生でもあるまいし」という意見もお聞きします。しかし、「あいさつなんて」という簡単なことが、市役所内でもできていないのが現実です。街中の人々が、お互いにあいさつを交わす長久手市になれば、「私はここに居ていいんだ」「私は見守られている」と感じることはできるはずです。

それこそが、一人ひとりに役割と居場所のあるまちへの第一歩です。第一歩に向け、まずは、市職員にあいさつを徹底させます。

これは何も孤立死対策だけではありません。夏休み中に発生した寝屋川市での事件や子どもの虐待、いじめ防止にも通じることです。

わずらわしいかもしれませんが、ちょっと勇気を出して、「おはよう」「元気ですか？」「困り事はありませんか？」とお互いに言葉を交わし、ご近所のつながりを今から築いていきませんか？ ご協力をお願いします。

下のカード（名刺大の大きさ）を安心安全課で配布しています。

個人でお持ちいただくほか、例えば、集合住宅の集合ポスト付近に掲示するなどにもご活用ください。

（表）

（裏）

